

2

レース鳩 THE RACING PIGEON

2014 FEBRUARY Vol.659

2013年度 総合表彰式&2014年懇親会を開催！

一般社団法人 日本鳩レース協会 執行部一覧

特集／第26回 日本最優秀鳩舎賞 座談会

2014年度 国際委託鳩舎レース実施要綱 発表



平成25年度 日本エースピジョン賞 全国1位

“岩岩系ハンセーヌ340”

12P A 06340 B ♀

岩倉 安廣 鳩舎作翔(静岡吉田連合会)

13年春 中部3地区連盟合同 桜花賞 887羽中 総合優勝

ベルギー王立愛鳩家協会会长賞 東部地区 1位

会長賞静岡連盟 2位

14年度 シルバーエクセレントピジョン認定

ガッツ 岩岩系基礎鳩“ターボハンセン”的直系

創生期の銘血が生み出した、日本一のレース鳩

平成25年度日本エースピジョン賞全国1位 & 13年春中部3地区連盟桜花賞総合優勝

岩倉安廣鳩舎（静岡吉田連合会）

出

会いというのは人の運命を大きく左右するものだ。静岡連盟において遠距離地帯に鳩舎を構えながら屈指の強豪として知られる岩倉安廣氏（静岡吉田）は、鳩レースに参加してまもなく1羽のトリと邂逅を果たす。ターボハンセン――。

平成25年度(第22回)日本エースピジョン賞全国1位

岩岩系ハンセース340 12PA06340 B ♀ 岩倉安廣鳩舎

*翔歴は表紙参照

- 07DA30091 BC 近藤直紀作
- 05PA08663 BC 近藤作 1000K飛翔(チンドン系×タイショウグリル)×(700K9位×1000K4位)
- タイショウグリル 98PA12266 BC 大井昭義作 近藤使務 01年総理大臣賞連盟1位 タイショウミヤマ全兄弟の娘
- ノーリング(03年生まれ) DC 岩倉安廣作
- 直仔／12年総理大臣賞連盟5位、長距離エースピジョン賞連盟5位
- 01PE03039 DC 神道幹康作 ヤンセン、ホフケンス、ヴァンリール、カトリスの混成系
- ハンセン75 50PA02275 BC 岩倉作翔 1000K総合25位他2回入賞 同腹／総理大臣賞連盟6位
- 87PA06128 BC 芝田作 ヤンセン系
- ハンセン181 90PA10181 B 岩倉作 ターボハンセン(84HS8818 BW ♂)×ターボハンセンの従兄弟 孫／07年静岡連盟地区N700K総合優勝 曽孫／12年春静岡連盟200K総合優勝

84年生まれのそれは、その名の通り系統はハンセンだ。鳩レース界創生期の競翔家、アレキサンドル・ハンセン(ベルギー)が形成し、60年代に日本でも一世風靡した銘血で、悪天候に強く長距離において抜群のスピードとスタミナ性を發揮するというのが特性。しかし80年代に起きたヤンセン、ローセンスブーム――スピード化という潮流に抗うことができず、表舞台から消えていった系統の1つである。

とはいえた導入当時は、過去の遺物ではなく戦力として数えられていた。岩倉氏はこの“ターボハンセン”にハンセン系をぶつけインブリードで戦っていたのだが、これが当たる、当たる。

89年の500キロ連盟8位を皮切りに総合シングル鳩がおもしろいように誕生！とりわけ短・中距離において力を示したようだ。遠距離地帯では、実力のみが問われる長距離でないと上位に入ることが難しいのはいわざもがな。そのジンクスを打ち破った「岩倉鳩舎」の名が、瞬く間に連盟中にも知れ渡ったのは言うまでもない。

90年代の中盤、殊勲の“ターボハンセン”的老齢化に伴い、主力は近親で作られた直仔らに委ねられた。

そこで岩倉氏はレーサーとして最適とされる“F1(二大雑種)”作りに選んだのは當時スピード系統の代名詞“ヤンセン”だった。同タイプによる強化が目的だが、先述の通り“ハンセン”は長距離系統だと勘違いしていたのだ。だがこの誤解こそが“ターボハンセン”系に進化をもたらし、連盟の強豪としての地位確立、さらに地理的ハンデの強い同地区で“ありえない壮挙”を次々と巻き起こしていく

02年秋、「ターボハンセン×ヤンセン系」で自身初の総合優勝を200キロで体験すると、07年には一代落ちているものの同バターンで中距離の華・地区Nを制覇！12年春の300キロではこの2羽同士の直仔で――“親子2代連続総合優勝”といふ驚きの成績を残す。親子2代連続総合優勝の歴史を“地”で

エースピジョンによるライン化に成功した例はあまたにある上、このトリは広域レースの1000キロを制している。歴代の日本エースピジョン賞の中でもトップクラスの翔歴を収めている。エースピジョンの理想を“地”でいく能力、そして遺伝能力の高さを証明する“アイバン”もくつきり表出しており、成功は約束されているといつて過言ではない。

1羽の種鳩との出会いから始まつたサクセスストーリー――。“ターボハンセン”いや“岩岩系”と岩倉氏の物語はまだまだ続きそうだ。

そこで岩倉氏はレーザーとして最適とされる“F1(二大雑種)”作りに選んだのは當時スピード系統の代名詞“ヤンセン”だった。同タイプによる強化が目的だが、先述の通り“ハンセン”は長距離系統だと勘違いしていたのだ。だがこの誤解こそが“ターボハンセン”系に進化をもたらし、連盟の強豪としての地位確立、さらに地理的ハン

デの強い同地区で“ありえない壮挙”を落としても活躍する、飛び筋となつていたことに気づく。そこで岩倉氏はこれまでの実績から基礎鳩ラインをひも解いていくと本懐はもちろん、代を落としても活躍する、飛び筋となつていたことに気づく。そこで岩倉氏はこれまでの実績から基礎鳩ラインを命名。もちろんその源鳩を担っていくのは、日本一のレース鳩“岩岩系ハンセン”もどい“岩石(ガツツ)”系と命名。むろんその源鳩を担っていくのは、日本一のレース鳩“岩岩系ハンセン”だ。